

P-55

扶正抗癌臍療帯のリンパ細胞転化機能に関する研究

301 医院中医科 北京復興路28号

○魏 振装

【目的】臍療帯は龍葵、白英、党参などの漢方薬で臍に貼って薬と穴位に通じて作用を起こる、6個病院の応用によって癌の患者の食欲と不眠と便通と体力を著しく改善できて放射線と化学治療の副作用を押えてきて免疫機能を向上できて、今回は免疫系に対する作用を動物実験で検討した。

【材料と方法】動物 LACK系マウス。方法 水で薬を混ぜて腹に貼って1匹に0.3g 毎日に1回、毎日に8時間、6日間貼って対照群は小麦粉末で貼る。脾臓リンパ細胞転化機能の測定方法は³H-TDRを混入する方法でマイトーゲンという cona と lps の刺激によって脾臓リンパ細胞の増殖機能の変化を測る事です。

【結果】治療群のマウスが24匹、対照群が22匹で、³H-TDR 混入 cpm 数は治療群の自動混入が5475±567で、対照群の自動混入が4286±865で治療群の cona によるTリンパ細胞が17803±1246で、対照群の cona によるTリンパ細胞が8790±1733で、治療群の lps によるBリンパ細胞が21085±2304で、対照群の lps によるBリンパ細胞が12560±863だ。治療群のTリンパ細胞と対照群のを比べて、治療群のBリンパ細胞と対照群のを比べると、差別が非常に著しく、 $p<0.01$ 。

【結論】マウスの臍に薬を6日間貼って脾臓のT、Bリンパ細胞の転化機能を著しく向上できて漢方薬がマウスの免疫機能を向上することを現している。